

【九和】

法界寺

92 和霊神社



神門には左大臣、右大臣の像がある。 和霊神社本殿



山本雲溪の絵馬

今も旧暦の6月23日（本社が現在の場所に移転した日）のお祭りは大変にぎやかで多くの出店が出る。



本殿前の力強い狛犬

推測される。

その後、寛政11年（1799）に今治藩主により現在の場所に社殿を建立した。漁業、商業、交通安全の神様として、県内はもとより、広島県など県外からも多くの参拝者があったという。今治の高橋や小泉に和霊神社への道しるべがいくつか残っていることからその賑わいが推測される。

宇和島の和霊神社が本社で、その祭神は山家清兵衛公頼。山家公頼は、宇和島伊達家の家老だった。神社は通常、何々の命とか権現様や八幡様をご神体としているが、家老の霊を祀っているのは大変珍しい。

宇和島藩は、元和元年（1615）伊達秀宗が宇和郡10万石に封じられ宇和島に入った。その時、父の伊達政宗が、山家公頼を総奉行としてつけ、彼が藩の財政を担うこととなった。

元和5年（1619）大阪城の石垣工事をめぐり、桜田玄藩と対立し、元和6年（1620）

山家公頼は、夜討ちされた。その後、暗殺に加担した者が次々と変死した。



小泉にある道しるべ

そこで伊達秀宗は、寛永8年（1631）山家公頼のご霊を勧請し、児玉明神として祀った。さらに承応2年（1653）松皮の杜に移転し、山頼和霊神社と改称された。和霊神社は、中四国を中心に多くの分社があり、玉川町法界寺の和霊神社もその一つ。当初は、法界寺村庄屋の浮穴家の邸内社として、本社から勧請して祀られていたが、お参りするものが多くなり、延享3年（1746）三島神社境内に移された。

93 三島神社



三島神社は、大三島の大山祇神社が総本社で全国に数多くある。愛媛県だけでも100社を超える。

玉川町にもたくさんさんの三島神社があり、法界寺の三島神社は、神龜5年（1256）に創建された町内でも古いお宮の一つ。かつては、その境内に和霊神社も置かれていた。

常夜灯や狛犬は、江戸時代後期のもので比較的新しい。境内には、クロガネモチや、ケンポナシなどの大木がある。